

事務事業評価シート

(H.30)No.	1475	(H.29)No.	1475
-----------	------	-----------	------

事務事業名	広域観光事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
産業部	観光交流室	山下 光彦	

会計区分	事業コード	363502
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 商工費	観光振興対策費	
項 商工費	(小事業名)	
目 観光費	広域観光事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	3	活力に満ちて暮らせるまち
	基本施策	1	地域産業の振興
	施策	3	観光交流
重点プロジェクト			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
近隣市村との連携を強化し、幅広いメニューを備えた広がりのある観光ゾーンを形成し、一体的な観光戦略や情報発信を進めることにより、名張の魅力や知名度の向上を図り、より多くの観光誘客を目指す。
事業内容
東大和西三重観光連盟事業として、広域的な観光関連事業を行うことにより、近隣観光地との相乗効果による観光誘客を図る。 伊賀流忍者観光推進協議会を組織し、「伊賀流忍者」を情報発信するとともに、日本忍者協議会に加盟し、国内外への情報発信を行う。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.29年度(事業量・取組実績)		H.30年度(事業量・取組計画)		H.31年度(事業計画)	H.32年度(事業計画)	H.33年度(事業計画)	
主な事業の実績・計画	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 東大和西三重観光連盟負担金 伊賀流忍者観光推進協議会負担金 日本忍者協議会負担金

	H.29年度(決算見込)		H.30年度(作成時予算額)		H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)	H.33年度(計画予算)
	H.28繰越分	H.29現年分	H.29繰越分	H.30現年分			
①直接事業費		750千円		750千円	750千円	750千円	750千円
内訳(千円)	国・県支出金						
	地方債						
	その他()						
	一般財源	0	750	0	750	750	750
人工数	職員		0.65人		0.65人	0.85人	0.85人
	臨時職員等		0.30人		0.30人	0.30人	0.30人
②概算人件費	0千円	5,350千円	0千円	5,350千円	5,350千円	6,830千円	6,830千円
①+②総事業費	0千円	6,100千円	0千円	6,100千円	6,100千円	7,580千円	7,580千円

4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.29年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)
東大和西三重エリア及び伊賀地域にある自然、歴史、忍者といった固有の観光資源を活用し、効果的な誘客を図ることができた。特に来訪者の多い関西エリアを中心に、観光キャンペーンを実施し、広域的な観光PRを展開できた。東大和西三重観光連盟においては、三重県と奈良県にまたがる広域観光ネットワークを活用し、各市村の観光キャンペーン等に相互出展し、集客の促進を図った。また、伊賀流忍者観光推進協議会及び日本忍者協議会においては、国内外に強い集客力を持つ、「忍者」をツールとして、国内外に情報発信することができた。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合(予定含む)、休止(予定含む)、廃止(予定含む)、事業完了(予定含む)	継続(現行)
---	--------

今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)
近隣観光関連団体との連携による、広域観光商品を造成し、国内外からの誘客を強化する必要がある。特に、平成32年の50周年を迎える室生赤目青山国定公園や、世界的な知名度を有するコンテンツである「忍者」を活用し、外国人を始め多様な旅行者の誘客に努める必要がある。

6. 事務事業の取組に関する市の計画
名張市観光戦略 名張市エコツーリズム全体構想